

「Z世代によるZ世代に向けた旅のすすめ」 ～21世紀スキル（未来を切り開く力）を伸ばす旅による学びの研究～



<メンバー>

- 大学院生：小田島真徒
- 学部生：趙子昊、井上慶太郎、新村一翔、喜屋武龍太、中村晃大、白水顕
- 指導教員：巴特尔、大竹英理子、今村康子

発表内容

1. 課題認識と着眼点

- ・ 背景（VUCA時代における旅の重要性・実体験）
- ・ 現状
- ・ 課題の整理

2. 研究の方向性

- ・ 研究目的、研究対象、方法論
- ・ 今後の研究計画

1. 課題認識と着眼点

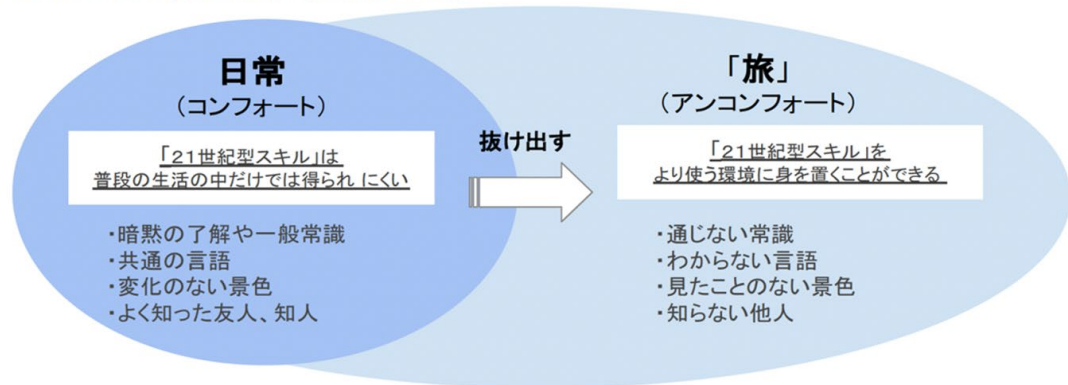
背景

- 昨年度のサービス・エンタメ班の取り組み「広島観光」の可能性-原爆・戦争・平和を学ぶ旅をどう組み立てるのかでは、フィールドワークで広島を訪れた後の学生に目覚ましい成長が見られた
- 越境学習、ラーケーションといった日常と異なる環境下での能力の向上が注目されている
- 旅、海外留学を経験すると学生のジェネリックスキルが高まるとの研究もある

仮説：旅には人を成長させる何かがありそう

VUCA時代における旅の重要性

これからの時代を生き抜くスキルを身につけるには、
コンフォートゾーンを抜け出す経験の出来る場が必要不可欠であり、
「旅」することでこれからの生きる力が身に付くと考える。



- **Volatility (変動性)**
変化が速く、予測が難しい状況。
- **Uncertainty (不確実性)**
未来が不確かで、何が起こるか予測しにくい状態。
- **Complexity (複雑性)**
多数の要因が絡み合っており、全体像が複雑。
- **Ambiguity (曖昧性)**
情報が不明瞭で、複数の解釈が可能な状況。



研究で既に効果が出始めている
→この効果をさらに掘り下げたい

イノ旅

- 高校生が旅を通じて地域課題に取り組む
- 宮崎県新富町でのプログラムを皮切りに、日本各地で展開予定。
- 旅と学びの関係性を研究し、「旅の回数が多い人はイノベーションを起こしやすい」という仮説
- 学生から「成長できた」との声多数

課題解決力

思考力

予見力

対話力

図1 イノ旅の特徴と教育的効果

イノ旅の特徴

- 五感を使って一次情報を収集する
- 地域事業者、地域高校生との密な交流
- 共通のミッションに向かって協働する経験
- 日常 (コンフォートゾーン) を抜け出す経験

教育的効果

課題発見・解決力

創造的思考力

多様な価値観を受け入れる力

レジリエンス、やりぬく力

主体性、行動力

日常 (コンフォートゾーン)

- ・暗黙の了解や一般常識
- ・共通の言語
- ・変化のない景色
- ・よく知った友人、知人

非日常 (アンコンフォートゾーン)

- ・通じない常識
- ・わからない言語
- ・見たことのない景色
- ・知らない他人

※協議会の資料を基に編集部で構成。

VUCA時代における旅の重要性 実体験から

～広島の平和に関する現地の方の想いや活動・外国人観光客との交流を通じて～

2023年度サービスエンタメ班 広島フィールドワーク



- ・ 平和についての関心が高まった
- ・ 世界での出来事への認識を高めないといけないと感じた
- ・ 現地にいくことで心に響いた
- ・ 日常を当たり前と思わず、目の前の時間を大切にするようになった
- ・ 思いやりや助け合いの精神が高まった
→能登ボランティアに参加
- ・ 社会的ネットワークでの存在意識を持つようになった
- ・ 多様な視点と新たな知見を得ることができた

若者にとっての旅の重要性

- 『かわいい子には旅をさせよ』ということわざがある
本当に子供がかわいいのなら甘やかさず、世の中にだし
辛く苦しい現実を体験させた方がいいということ（名鏡ことわざ使い方辞典）

- グランドツアー

様々な都市を訪問し、異文化や非日常を感じ教育の仕上げに教養及び
精神の向上に16世紀以降の欧州で行われていた

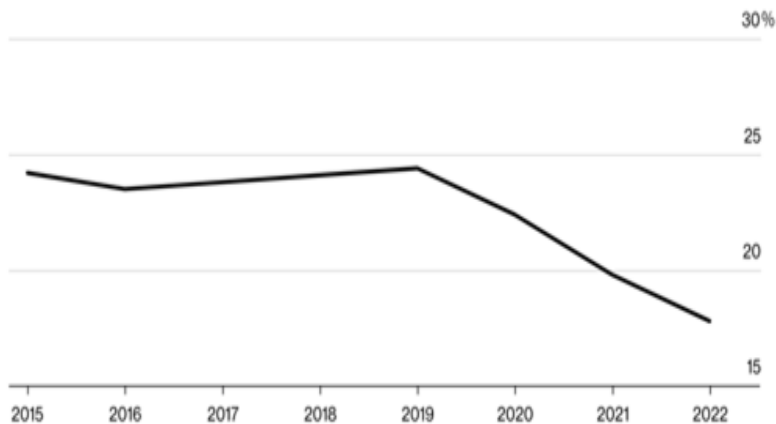


昔から若者が生活圏を出て旅することは、
成長や学びを得られるものであると考えられていた

現状

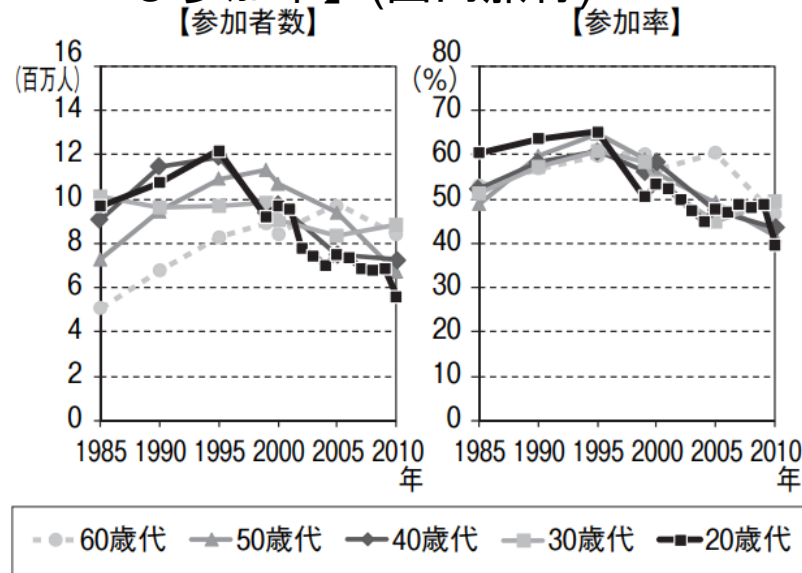
- 元々日本人のパスポート保有率は主要国に比べてきわめて低い
- 20代若者の国内・海外旅行離れの傾向が顕著

【日本人パスポート保有率】



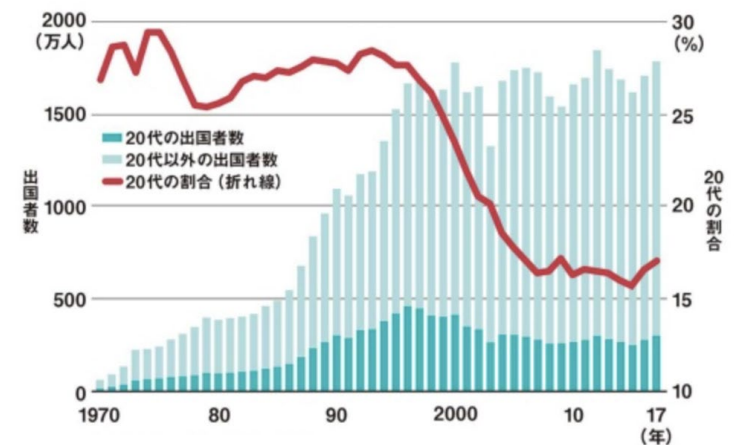
出所：日本旅行業協議会

【年齢階層別参加者数および参加率】(国内旅行)



出所：若者と旅ー若年層の国内観光行動の時系列分析ー（国際交通安全学会誌）

【日本人出国者数と20代の割合】

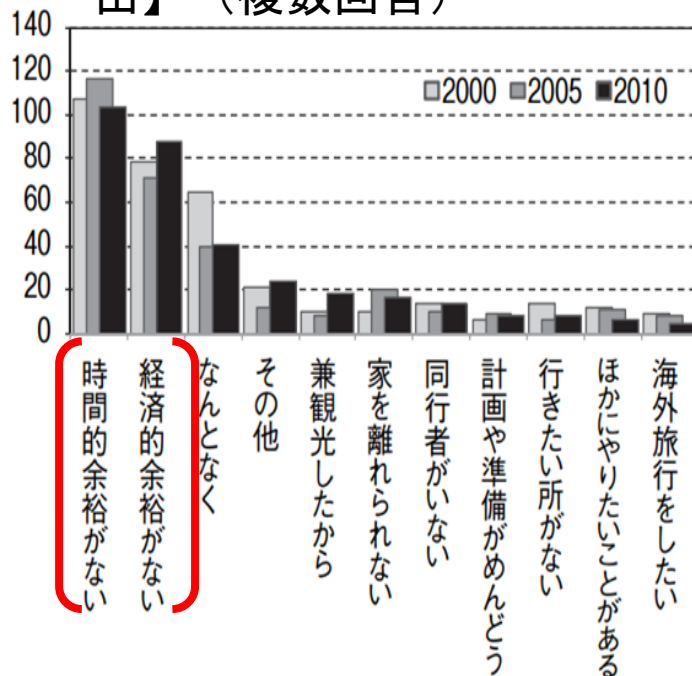


出所：法務省「出入国管理統計統計表」

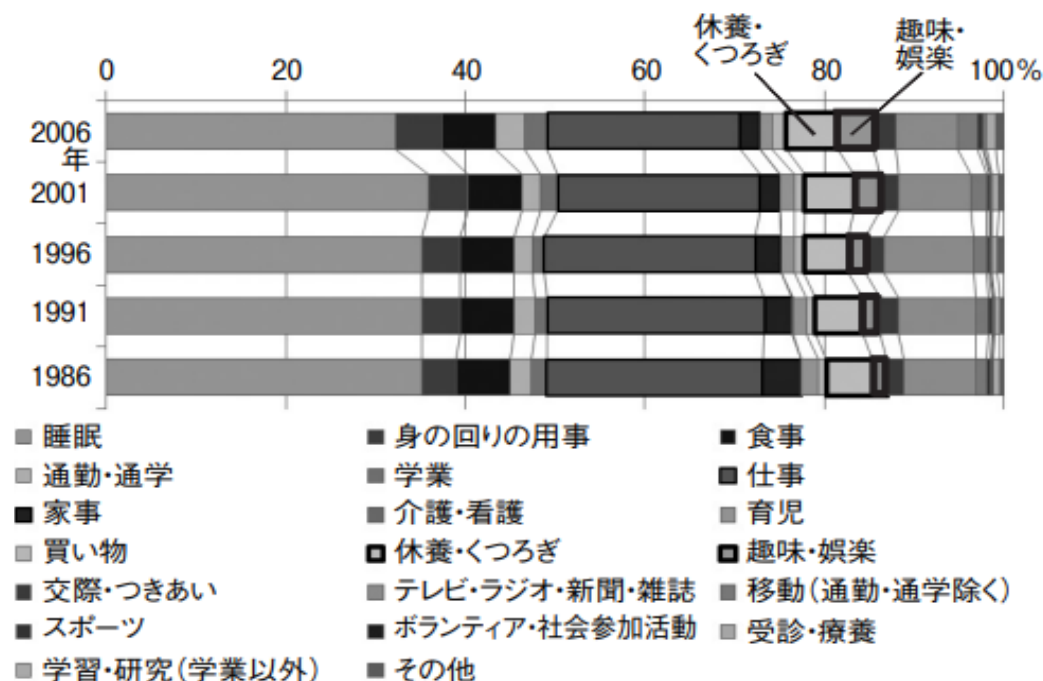
現状

- 時間的余裕がない、経済的余裕がないとの理由
- IT情報の閲覧の時間が上昇傾向も一因

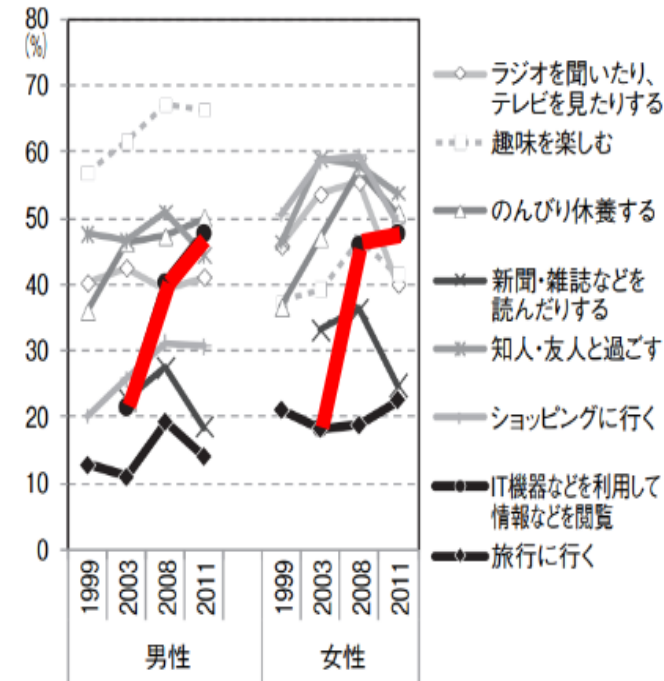
【若年層の旅行をしない理由】
(複数回答)



【若年層の時間の使い方】



【若年層の自由時間の過ごし方】
(複数回答)



課題の整理

課題認識：

VUCA時代において若者が旅に出る意義は高まっていると考えるが、実状は優先順位が下がり旅に出なくなっている

旅の優先順位が下がっている要因仮説：

- ・ 若者の余暇の「時間配分」がSNSに偏ってしまっている
- ・ ネット上で情報を得たり、人とのつながりを持つことができるため、リアルな体験をしなくても知った気になり、心地よいフィルターバブルの中にとどまってしまう
- ・ タイパ世代は確実性（目に見える結果）を求める傾向が強い。旅を通してどのような能力が得られるのかが明確でないため、旅の優先度が下がっている

旅の重要性を明らかにすることで、同世代の若者達が旅に出るきっかけを作りたい

2. 研究の方向性

研究目的・対象・方法論

研究目的：

旅の重要性を明らかにすることで、若者が旅に出るきっかけ作りにつなげる

方向性① リアルに体験する実際の旅とオンライン旅で得られる学びにどのような違いがあるかを明らかにする

方向性② 旅のどのような経験がジェネリックスキルを高めるかを明らかにする

研究対象：若者（20歳前後の大学生を想定）

研究方法：文献調査、フィールドワーク、アンケート・ヒアリング調査

理論と実際の経験を踏まえ、最終的に「Z世代によるZ世代に向けた旅のすすめ」として提案をまとめる

今後の研究計画

- 旅と学びの協議会にアソシエイト会員として参画
- 文献調査、評価指標の検討、アンケート作成
- フィールドワーク：21世紀スキルを高める旅を実施（夏）
- アンケート・ヒアリング調査、分析を行い論文としてまとめる
- 今年度末、旅の学びの協議会サミットで学生が研究発表

【フィールドワーク候補地】 旅と学びの協議会メンバーの自治体、企業とプロジェクトを組み協力を得る

- ・ 北海道帯広市、北広島市、富良野市、一般社団法人 千歳観光連盟
- ・ 岩手県紫波町
- ・ 茨城県牛久市、常総市
- ・ 長野県駒ヶ根市
- ・ 鳥取県、鳥取県江府町
- ・ 熊本県天草市、八代市
- ・ 西オーストラリア政府観光局
- ・ 和歌山県（個人研究員）
- ・ 鹿児島県南大隅町（個人研究員）

参考文献（ウェブサイトを含む）

1. 津田佳明「旅と学びを検証する」、Career Guidance Vol.450 2024 APR P19－23
<https://shingakunet.com/ebook/cg/450/#page=21>
2. ペール・アンデション著 畔上司訳『旅の効用：人はなぜ移動するのか』、草思社、2020年
3. 長倉顕太『移動力』、すばる舎、2019年
4. 金 春姫・鎌田裕美「若者の旅行に対する意識」、成城・経済研究 第188号（2010年3月）
<https://www.seijo.ac.jp/pdf/faeco/kenkyu/188/188-kin-kamata.pdf> 閲覧日：2024/06/01
5. 日比野直彦・佐藤真理子「若者と旅－若年層の国内観光行動の時系列分析－」、国際交通安全学会誌 VOL.37、No. 2、2012年9月、<https://www.iatss.or.jp/common/pdf/publication/iatss-review/37-2-07.pdf>
閲覧日：2024/05/10
6. 「若者が旅行しないのはなぜ？旅行離れにつながる若者の意識や志向をまとめてご紹介」、ホテル宿泊業界情報コラム おもてなしHR、2021年7月7日 https://column.omotenashi.work/column/bits_of_knowledge/24393
閲覧日：2024/5/20
7. 消費者庁 「【特集】変わる若者の消費と持続可能な社会に向けた取組～18 歳から大人の新しい時代へ～」
『令和4年消費者白書』（第1部第2章）、2022年
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/assets/2022_whitepaper_0003.pdf 閲覧日：2024/6/1

ご清聴、ありがとうございました。

APPENDIX

(表1) スマートフォンで利用する主な SNS や動画投稿サービス(性年代別)

(複数回答)

	LINE			YouTube			X(旧Twitter)			Facebook			Instagram			Tik Tok		
	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018
全体(1030)	89.5	89.6	83.7	71.1	64.2	60.7	50.3	41.6	40.1	↓ 25.2	37.3	38.3	↑ 50.6	38.7	33.6	↑ 17.7	4.1	3.0
男性 29歳以下(103)	85.4	93.9	93.2	80.6	87.8	81.6	↑ 80.6	70.4	72.8	↓ 17.5	40.8	48.5	↑ 63.1	52.0	49.5	↑ 33.0	6.1	15.5
男性 30代(103)	91.3	88.8	75.7	↑ 89.3	77.6	66.0	↑ 68.9	56.1	47.6	↓ 37.9	50.0	50.5	↑ 50.5	36.7	26.2	↑ 23.3	10.2	4.9
男性 40代(103)	85.4	85.7	77.7	72.8	68.4	64.1	↑ 50.5	38.8	40.8	↓ 26.2	40.8	42.7	35.9	29.6	21.4	10.7	6.1	0.0
男性 50代(103)	83.5	83.7	68.9	65.0	59.2	56.3	43.7	34.7	30.1	↓ 26.2	41.8	32.0	26.2	26.5	28.2	11.7	3.1	0.0
男性 60代(103)	85.4	76.5	72.8	52.4	49.0	52.4	26.2	17.3	30.1	30.1	32.7	35.9	↑ 23.3	12.2	23.3	↑ 12.6	1.0	0.0
女性 29歳以下(103)	95.1	99.0	97.1	↑ 89.3	78.6	75.7	77.7	77.6	75.7	↓ 10.7	46.9	55.3	↑ 88.3	77.6	79.6	↑ 36.9	7.1	6.8
女性 30代(103)	92.2	95.9	92.2	71.8	66.3	65.0	↑ 59.2	38.8	37.9	↓ 29.1	46.9	44.7	↑ 75.7	61.2	50.5	13.6	4.1	1.9
女性 40代(103)	93.2	94.9	88.3	↑ 71.8	57.1	55.3	35.0	32.7	29.1	30.1	24.5	32.0	↑ 60.2	40.8	21.4	↑ 16.5	1.0	1.0
女性 50代(103)	90.3	91.8	89.3	↑ 63.1	50.0	55.3	40.8	36.7	29.1	22.3	31.6	30.1	↑ 51.5	34.7	25.2	↑ 13.6	2.0	0.0
女性 60代(103)	93.2	85.7	81.6	54.4	48.0	35.0	20.4	13.3	7.8	22.3	17.3	11.7	↑ 31.1	15.3	10.7	4.9	0.0	0.0

＊赤矢印:2019 年より 10 ポイント以上上昇したもの
 青矢印:2019 年より 10 ポイント以上減少したもの

白水さん、具体的な研究・分析の方法としてインターゼミで皆さんの意見聞いてみましょう。

雑案

BeReal.というアプリが大流行

→その場の「リアル」の需要が拡大していることの裏返し???

BeReal.とは：

リアルな日常の一コマを、写真一枚だけ友達とシェアできるSNS。

昼夜問わずランダムに一日一回、通知が来た瞬間2分以内に投稿するのがルール

そのため、「今」「どこで」「なにを」が即時共有されるため「生々しさ」が重要視されている

1. インスタグラムの「ストーリー」機能を利用し、若者はその場の出来事を共有するのが常識化している
 - a. アンケート形式での調査は、若者にとって煩わしさを感じさせてしまう。
→であれば、日常的に利用しているサービスに「リアル」が投稿されているのであれば、こちらを活用して解析が有用ではないか
1. インスタグラムだけではなく、左記の「BeReal.」「X（旧ツイッター）」「LINE」等のメッセージツールで友人・親族等にその場で共有している内容も解析
 - b. 個人の感想をその場で発信しているのを「直感的に」感じているリアルを無意識に発信・残している
 - c. これはかなり有用ではないのか??!
 - d. ※勿論調査の際は個人情報に当たるので強制はしない